

425スト貫徹

七九春闘の最大の山場である交通、公労協の二五日以降三日間の七二時間ストを中心とする四月末決戦ストは、公労委における調停案五、六三%、平均額九、六四一円をもって、公労協の二五日午前、スト中止の決定——で実質上の山場を越えた。

ますます右傾化を強める労働運動

総評をはじめとする既成指導部は、労働者、大衆に対し、なんらの展望と指導性を示し得ず、「企業(会社)あつての労働者」という極めて危険な企業防衛主義の立場をますます露骨に打ち出し、資本・当局からの激しい合理化、賃下げなどの攻撃の前に労働者・大衆をなげだし、積極的にこの資本攻勢を受け入れ、承認していくという役割をはたしている。

また、総評労働運動の中核部隊である公労協は、全電通が独自「闘争」を進めるとして七九春闘から実質的に脱落し、加えて、公労協傘下各組合の指導力がますます低下し、公労協の分裂化傾向が一段と強まっている。

と運動し、政府・支配階級は元号法案の国会日程、大平首相の靖国神社参拝など、矢継早の反動化を強めている。

4・26〜27スト貫徹をもって労働基本権をかちとろう!

政府・支配階級の危機にかられた攻撃が激化する中で、この攻撃につきつぎと屈服し、労働運動総体が産業報国会化と右傾化を強めている現状のなかで、七九春闘の収束と敗北が、この傾向をさらに強めるであろうことは必至である。こうした既成の労働運動の右傾化と産報化にくさびを打ちこみ、特に、動労の大改革をかちとることを通して、日本労働運動の戦闘的再生をめざし、結成されたわが動労千葉の闘う路線の正しさと正義がますます明らかとなっている。

政府・当局の七九春闘圧殺と反動的攻撃の激化

こうした労働運動総体の右傾化と分裂化傾向の中で、七九春闘最大の山場をむかえた二五日段階において、政府・当局は労働側が全く闘う気力のないことを見すかし、従来の私鉄相場にならつて公労協の賃上げ額を決定していたパターンを打ち破り、公労委の調停・仲裁移行の作業を私鉄II中労委に先行させ、七九春闘総体の長期化を押しさえ込み、一挙に収束させるといふ極めて高圧的な攻撃を行なってきた。

こうした七九春闘圧殺・合理化・賃下げの攻撃

われわれは、こうした厳しい状況の中で、4・25半日ストを勝浦・館山・木更津支部を中心に断固として闘い抜いた。この成果をもって、団交権をはじめとする労働基本権の確立をめざし、4・26〜27ストを新生動労千葉の底力を発揮して敢然と闘い抜こうではないか。

「79春闘勝利」 大巾賃上げ・労働基本権確立

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

速報 (4月26日、0時30分)

動労千葉は4月26日0時30分、425スト貫徹の成果を踏まえ、4.26-2748Hストを構える中から当局を追及し「確認メモ」を交換し、一定の前進を確認し、次のように準備体制の解除を指令した。

4.26-27スト準備体制の解除について

動労千葉本部は春闘統一スト中止以降、4.26-27ストを背景に労働基本権要求を中心として国鉄当局を追及してきた。一方暴力集団中央本部は国鉄本社に対してあらゆる妨害策動をもって対応していたが動労千葉のゆるぎない闘争体制の中で、国鉄当局は逆にわれわれの正当性を認め一定の方向を示してきた。

従って本部は今度この成果を確認して4.26-27ストの準備体制を解除することを決定した。

今度この闘いによせられた全組合員家族の努力に心から敬意を表するとともに、すでに経験しているように労働基本権確立の闘いの歴史をふまえさらなる団結の強化をはかることを要請しつつ、次の通り指令する。

指令

- ①各支部は4.26-27ストの準備体制をすみやかに解除すること。
 - ②各支部は4月27日10時より支部代表者会議を開催するので必ず出席のこと。
- 以上